

国語の支援

言葉を楽しむ

言葉による指示の理解や、問題文の読み取りなどは、すべての教科において必要です。そして、そのベースとなるのが国語力です。読むこと、聞くこと、話すこと、書くことは、全教科につながる基本的領域ですので、低学年のうちからていねいに支援しておきましょう。

「読み」が苦手な子への支援

128

「指はさみ読み」で意識させる

指はさみ読み



音読のときに、文字を意味のまとまりで確認させるために、親指と人さし指で単語を一つずつ、はさみながら確認させます。

40

サツとツール

ラインマーカー

教科書に1行おきにラインを入れていくと読みやすい場合があります。ラインマーカーの色は、その子の好みや入力しやすい色などを考えて選択します。

41

サツとツール

単語カード

単語のまとまりを何度もカードで読ませます。授業中に突然単語カードをぱつと出して読ませる、といったゲーム形式の活用も有効です。

129

サツとツール

早口言葉で覚えさせる

「きつと、きつて（切手）かって（買って）きて」といった言葉をゲーム感覚で覚えさせます。

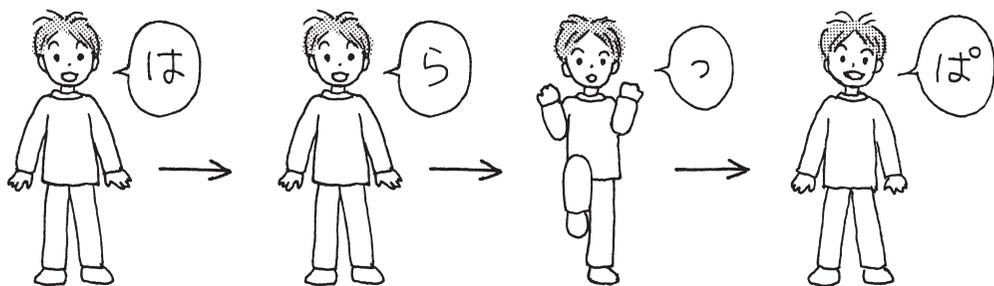
130

サツとツール

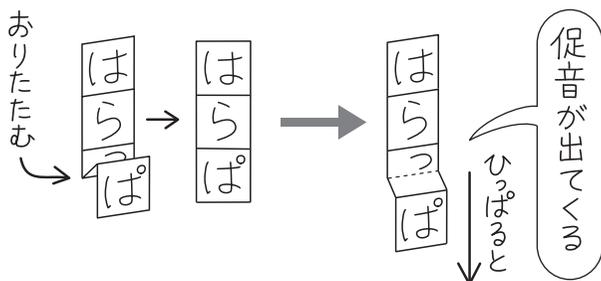
体を使って覚える

リズムを使ったり、体を動かしたりして覚えさせます。この方法は、授業中の

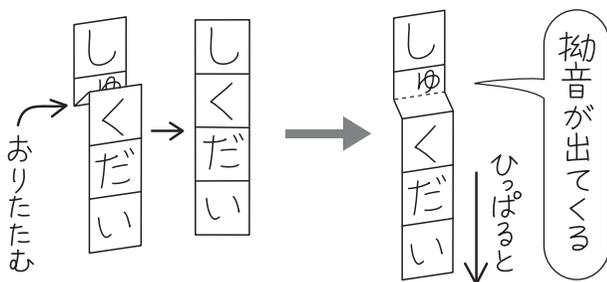
エクササイズ読み



促音カード



拗音カード



リフレッシュにもなります

①手を叩きながら読む……例えば、「はらっぱ」であれば4回手を叩きますが、「はらば」と読む子は3回になってしまいます。

②エクササイズ読み……クラス全員で上のイラストのように立ちます。単語を讀みながら、促音や拗音で片足を上げさせて、リズムを体で覚えさせます。

42

サツとツール

促音カード・拗音カード

促音を飛ばして読むとどのように違うのかを、実際に目で見て確認できるようにします。同じように、拗音を飛ばして読むとどのように違うのかを、実際に目でみて確認できるようにします。

43

サツとツール

拗音のこころ

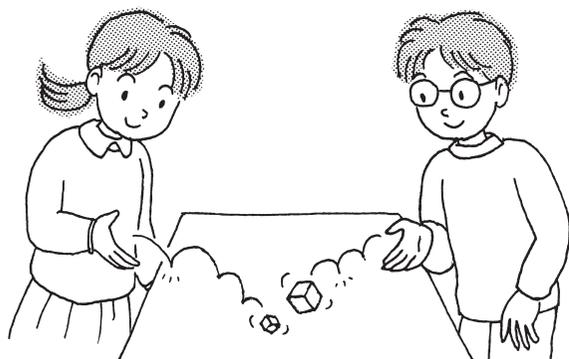
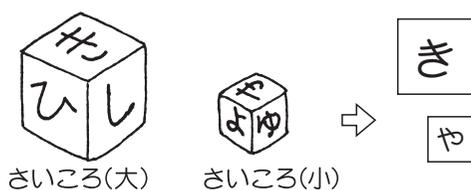
小学校低学年の拗音習得について見てみると、例えば、①「しゃ」と読めるが、「し」と「や」を分けて表記できない、②拗音「ゆ」を飛ばして聞き取っている、③似た音「ぎ」「じ」が聞き分けられない

★「拗音さいころ」のつくり方

- ①大きさを変えた2種類のさいころをつくります。
- ②大きいほうのさいころ(大)には、拗音と組み合わせられる文字(き、し、ち、に、ひ、み、り、ぎ、じ、ぢ、び、び)からいずれか6つを選び、さいころの各面に書き入れます。
- ③小さいほうのさいころには、拗音(や、ゆ、よ)をさいころのそれぞれ対向する面に書き入れます(3種類の文字しかないなので、1種類が2つの面に書かれます)。

*さいころは、コーナーを透明の板(プラ板)でとめて、文字を書いた紙を取り外しできるようにすると便利です。それぞれのひらがな文字の紙の裏には、カタカナ文字を書き、リバーシブルで入れ替えることもできます。

(西埼玉LD研究会・入江悦子先生考案)



い、などの課題を持つている子が多く見られます。例えば、次のような拗音での間違いが見られます。

「でんしゃ」……でんしゅ、でんしよ、

でんしや

「しゅくだい」……しくだい、すくだい

「きんぎょ」……きんじよ、きんぎよ

そこで、この「拗音さいころ」で、学習面にゲーム的要素を取り入れ、楽しんで学習させながら、拗音の定着を図り

ます。

「拗音さいころ」のつくり方は、囲みを参照してください。

△さいころ遊びの仕方▽

基本編 拗音の仕組みや発音を学ぶ

- ①2人が前に出て、大きいさいころと小さいさいころの担当を決めます。さいころを転がす係は、おとなしい子や、ふだんあまり発言する機会がない子に

お願いするとよいでしょう。

- ②1人が大きいさいころを投げます。
- ③2人目の子が小さいさいころを投げます。

- ④2つのさいころの出た文字を見て、発音します(音、仕組みの確認)。

- ⑤担任はゆっくり板書します。

- ⑥子どもたちがこの音を含む「言葉あつめ」をします(担任は板書を担当)。

- ⑦次の2人が前に出ます。